

モーツァルト室内管弦楽団 第176回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester/ 176.Regulärkonzert

〈モーツァルトとハイドン〉その11

2017年6月17日(土)午後2時■いずみホール

Samstag, 17. Juni, 2017 14Uhr Izumi Hall Osaka

■主催:NPO法人モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.moz-kam.org>

■協賛:いずみホール〔一般財団法人 住友生命福祉文化財団〕

■マネジメント:大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504

*本年1月モーツァルト室内管弦楽団はNPO法人となりました。



モーツァルト室内管弦楽団 第176回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 176.Regulärkonzert

2017年6月17日(土)午後2時●いずみホール

Samstag, 17. Juni, 2017 14Uhr Izumi Hall Osaka

〈モーツァルトとハイドン〉その11

《ハイドンとモーツァルトのト短調交響曲》について(解説:門 良一)

ハイドン

Joseph Haydn (1732-1809)

交響曲 第83番 ト短調 Hob.I-83 《めんどり》
Sinfonie Nr.83 g-moll Hob.I-83 „La poule“

- I. Allegro spiritoso
- II. Andante
- III. Menuet: Allegretto
- IV. Finale: Vivace

モーツァルト

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K.488*
Konzert Nr.23 A-dur für Klavier und Orchester KV488*

- I. Allegro
- II. Adagio
- III. Allegro assai

* * *

ピアノ独奏付きソプラノのための演奏会用レシタティーヴォとロンド
《どうしてあなたを忘れられよう》—《恋人よ、恐れずに》 K.505**

Rezitativ und Rondo für Sopran, obligates Klavier und Orchester
„Ch'io mi scordi di te?“ — „Non temer, amato bene“ KV505**

交響曲 第40番 ト短調 K.550
Sinfonie Nr.40 g-moll KV550

- I. Molto Allegro
- II. Andante
- III. Menuetto: Allegretto
- IV. Allegro assai

ピアノ独奏: 松村 英臣* / Klavier-Solo: Hideomi Matsumura*
ソプラノ独唱: 櫻井 孝子** / Sopran-Solo: Takako Sakurai**
コンサートマスター: 釋 伸司 / Konzertmeister: Shinji Shaku
指揮: 門 良一 / Dirigent: Ryoichi Kado

《ハイドンとモーツァルトのト短調交響曲》

ハイドンがモーツァルトに及ぼした影響の結果として有名なのは《ハイドン・セット》と呼ばれる6曲の弦楽四重奏曲である。そのもとになったのはハイドンが1781年(ハイドン49歳)に作曲し翌年に出版した6曲からなる《ロシア四重奏曲》である。モーツァルトの《ハイドン・セット》は1782年(モーツァルト26歳)に作曲が開始され、あしかけ5年の歳月をかけて「長くつらい労苦の結実」(モーツァルトのハイドンへの献呈の辞)として全6曲が完成している。作品を聴けばモーツァルトにおいてハイドンの影響がいかに大きかったか、モーツァルトがその影響のもとに自らの芸術を生み出そうと努力したかがわかる。

交響曲の分野においてもモーツァルトのいわゆる《3大交響曲》を「交響曲の《ハイドン・セット》」と呼んでもいいのではないかと私は思う。ハイドンが1785~6年(ハイドン53~4歳)にパリのオーケストラからの依頼で作曲した6曲からなる《パリ交響曲》の始め3曲の調性がそれぞれ、第82番ハ長調、**第83番ト短調**、第84番変ホ長調となっていて、モーツァルトの《3大交響曲》の第39番変ホ長調、第40番ト短調、第41番《ジュピター》ハ長調と順序こそ違え見事に一致しているからである(私はこの事実をかなり昔、NHK-FM放送におけるハイドン研究者、中野博詞氏の解説ではじめて知った)。ハイドンはほぼ30年(29~58歳)の間、ハンガリーの貴族に仕え旅行らしい旅行をしたことがなかったが、ヨーロッパ中にその令名はとどろいており、作曲依頼や楽長就任依頼が引きも切らなかった。《パリ交響曲》は行ったこともない大都市パリからの直接の注文によるものであるが、モーツァルトはそれによってハイドンの交響曲の世界における高名ぶりを知り、自分もハイドンに倣って交響曲のセットを作ろうと考えたに違いない。その結果、上述のような調性の一致となったのであろう。だが《3大交響曲》の場合、弦楽四重奏曲の《ハイドン・セット》と大きく異なって、その作曲は1788年(モーツァルト32歳)の夏の3か月くらいのごく短い期間に作られているし、音楽も表面的にはハイドンと似たところはほとんどないのである。

では私が《3大交響曲》を「交響曲の《ハイドン・セット》」と呼ぼうというのはなぜか。それはハイドンがモーツァルトに与えた重大なヒントがあると思うからである。音楽の調性というものはその作品の性格を決める最も重要な要素の一つであるが、モーツァルトはハイドンから音楽の本質にかかわるヒントを得て、《3大交響曲》の調性を決めたに違いない。たとえばト

短調であるが、「モーツァルトのト短調」といえばこの**第40番交響曲**ともう一つのト短調交響曲(第25番K.183)、それに弦楽五重奏曲K.516があるため「モーツァルトの宿命の調」と言われて特別視されているが、そのうちの1曲はなんのことはない、ハイドンが起源であることがおわかりであろう。「宿命の調」などというのは過剰にロマンチックな見方であって、たとえば「モーツァルトのニ長調」とか「モーツァルトのト長調」の名のもとに彼の名曲をいくつか挙げることはいともたやすい。

ハイドンのト短調の交響曲第83番の第1楽章は暗くて重いエネルギー感ある音楽で始まる。ところが曲が進んで第2主題が出てくる頃になると何とも明るい陽気な音楽になってしまっ、あだ名の通りめんどりが餌をつつく様子を思わせる曲想になる。再現部でもう一度冒頭の暗くて重いテーマが再現するが、その直後に音楽はト長調に転じ、それ以後第4楽章の最後までト短調は二度と戻ってこないのである。第1楽章冒頭の暗くて重い音楽は、ハイドンがそれより12、3年前に書いていた一連の短調交響曲群、いわゆる「シュトルム・ウント・ドランク交響曲」を思わせるものがある。ハイドンは交響曲第83番を書くにあたって、昔の自分のスタイルをみずからパロディ化して見せたのであって、曲の大部分はそんな古臭い音楽ではなくて全く新しい自分の音楽なんだよと言っているのである。

一方のモーツァルトはハイドンの83番を聴いてショックを受けたにちがいない。そのショックを受け留めて何とか自分の音楽を作らねばならないが、ハイドンが見せたような陽気な新しい方向にはとてもついていけない。しかしハイドンの音楽は魅力的である。自分が魅力と感じるところはあの暗くて重い最初のところである。思えば自分も昔ハイドンの影響で最後まで暗くて重いやはりト短調の交響曲(第25番K.183)を書いた。そうだ、あそこに戻るしかない。と、モーツァルトは考えたにちがいないと私は思うのである。

ハイドンは音楽における革新主義者で、6曲の《パリ交響曲》は当時の交響曲の世界に革命を起こして、後の12曲の《ロンドン交響曲》につながり、それがさらにベートーヴェンに受け継がれていくのである。モーツァルトは保守主義者、懐古主義者であったので、ハイドンの影響というものはモーツァルトにハイドンの昔のスタイル、さらにはそのスタイルに倣って書いた自分の過去のスタイルを思い起こさせるにとどまったのではない。

モーツァルトはハイドンからそのようなヒントを得て、自己独特の感性にもとづいてハイドンよりはるかに手の込んだまったくユニークな交響曲を書いたのである。

Program Notes

■ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K.488

全部で23曲あるモーツァルトのピアノ協奏曲(最後のピアノ協奏曲は第27番であるが、第1~4番のピアノ協奏曲はモーツァルトの真作ではなく、他の作曲家の作品のピアノ協奏曲への編曲である)中、第20番ニ短調K.466とともに最もよく知られている。1786年(モーツァルト30歳)の作品。この時期モーツァルトは新しい管楽器クラリネットの魅力にとりつかれており、この協奏曲と一つ前の協奏曲第22番変ホ長調K.482においてはオーケストラにオーボエを排し代わりにクラリネットを入れるという革命的なことを行っている。また次の協奏曲第24番ハ短調K.491ではオーボエとクラリネットの両方を入れるということもしている。モーツァルトの他のイ長調の作品と同様、きわめて明快な音楽である。

■ピアノ独奏付き演奏会用アリア

《どうしてあなたを忘れられよう》

《フィガロの結婚》の初演でスザンナを歌った歌手、ナンシー・ストーレスが英国に帰国する際のお別れ演奏会のために作られた、ピアノ独奏入りでオーケストラ伴奏付きという珍しいかたちの演奏会用アリア。テキストはオペラ《イドメネオ》がウィーンでの再演用に改作された際に付け加えられた、クレタの王子イダマンテがトロイの王女イリアに向かって歌うアリアから取られている。この曲はメゾソプラノ歌手のレパートリーとなっており、現在高音の得意なソプラノ歌手が配されること多い《フィガロの結婚》のスザンナ役が元来メゾソプラノ用であったことがわかる。モーツァルトのストーレス嬢への想いが込められた別れの歌であり、ピアノがソプラノにまわりつきまはエロティックにささ聴こえる。

Profile

松村英臣●ピアノ *Hideomi Matsumura, Klavier*

大阪音楽大学附属高等学校を経て大阪音楽大学卒業、同大学院修了。八十六年デビューリサイタル開催。90年には第9回チャイコフスキー国際コンクールにてディプロマ授与、併せてベスト・バッハ演奏者賞受賞し、モスクワ音楽院大ホールでの記念演奏会に出演。以後、その活躍は目覚しく、各地でソリストとして活動を展開し、松原市文化賞、大阪府民劇場奨励賞、東京ベストサンクス賞、大阪文化祭賞奨励賞(4回)、文化庁芸術祭優秀賞等受賞。また、数多くのオーケストラとの協演の他、2014年秋にはモーツァルト室内管弦楽団を指揮。声楽や器楽の伴奏者としての信頼も厚く、あらゆるジャンルに順応しながら独自のピアノニズムの世界を築き上げている。ラジオやテレビ出演も数多い。CD「チャイコフスキー《四季》」、「松村英臣ロマンティックセレクション」をリリース。大阪音楽大学で後進の指導にあたる傍ら、全国各地で精力的な演奏活動を展開している。日本演奏連盟会員。



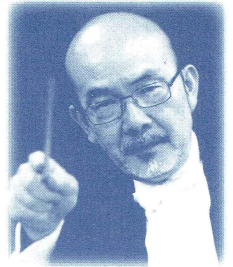
櫻井孝子●ソプラノ *Takako Sakurai, Sopran*

大阪芸術大学演奏学科声楽専攻卒業。これまでに内外のオーケストラとの共演の他、各種コンサートに多数出演。オペラでは「マリツァ」マリツァ、「こうもり」ロザリンデ、「メリー・ウイドウ」ハンナ・グラヴァリ、「カルメン」カルメン(全て日本語上演)等で活躍する。また近年では、チャリティコンサートに積極的に出演する他、「つばみコンサート」と題し義援金付き弾き歌いコンサートを企画演奏する等、多彩な活動を展開している。第26回イタリア声楽コンクール金賞、第18回飯塚新人音楽コンクール第2位受賞。枚方演奏家協会、ミュージックアートステーション所属。



門 良一 ● 指揮 Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。1962年京都大学理学部物理学科卒業、67年同大学院終了。京都大学オーケストラには学部、大学院を通じて10年間在籍し、フルート奏者、指揮者を務め、同オーケストラの発展に多大な貢献をする。また、客演指揮者の故近衛秀麿、故朝比奈隆、故岩城宏之、故若杉 弘、故奥田道昭、秋山和慶各氏等のもとで副指揮者を務め、薫陶を受ける。70年モーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり、同楽団を日本有数のプロ室内オーケストラに育て上げた。モーツァルト、ハイドン等の古典派の作品を35人の室内オーケストラで優雅に繊細に演奏する独自のスタイルを確立している。企画力にも優れ、モーツァルトの「予約演奏会の再現」やオペラ《イドメネオ》の世界初ノーカット上演などの大きな企画を成功させている。また、世界的名手との協演も多く、ピアノのマリア=ジョアオ・ピリス、シプリアン・カツァリス、ヴァイオリンのライナー・キュッヒル、ホルンのペーター・ダム等との協演においてはソリストの絶大な信頼を得て大成功を収めている。近年は古典派だけでなく前期ロマン派やフランス音楽においても、企画、演奏両面で注目すべき成果を上げている。アマチュアの指導にも熱意を持ち、京都産業大学神山交響楽団の音楽監督・常任指揮者を創立時より務めている。モーツァルト研究者として知られ、1982～2011年NHK大阪文化センター、1992～2011年同神戸文化センターにおいて「モーツァルトを聴く」の講師を務める。京都産業大学名誉教授。



● NPO法人モーツァルト室内管弦楽団 Mozart-Kammerorchester Japan

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、47年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に17回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シプリアン・カツァリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉を、09～11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を開催。また10年からは〈ベートーヴェン・シリーズ〉を、15年からは〈創立45周年シリーズ〉を開始している。本年1月NPO法人となる。

《メンバー》	コンサートマスター 釋 伸司											
第1ヴァイオリン	釋 伸司	本多 智子	稲庭真理子	松本 紗希	森住 憲一	北村 奈美	中野 瑞己					
第2ヴァイオリン	中川 敦史	都築紗智子	田原口安代	白水 響子	幣 晴代	清水めぐみ						
ヴィオラ	道幸 明美	森永 愛子	三上 哲	灘儀 育子								
チェロ	日野 俊介	石 豊久	野田 祐子	境 綾子								
コントラバス	南出 信一	北田 由美										
フルート	大江 浩志			オーボエ	戸田めぐみ	大森 美希						
クラリネット	高橋 博	島田 香			ファゴット	佐伯 利之	倉永 晴美					
ホルン	佐藤 明美	垣本奈緒子										
インスペクター	中川 敦史			ライブラリアン	本多 智子							

会長 谷口 安平 (京都大学名誉教授)
 監事 玉井 英二 (三井住友カード特別顧問)
 顧問 伊藤 郁太郎 (大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長) 梅原 猛 (国際日本文化研究センター顧問)

(50音順)

《法人会員》(50音順)

荒川化学工業	三 孝 社	ダイキン工業	福 山 製 紙
関西電力	サンリーホールディングス	高松建設	マキ工業
きんでん	新日鐵住金	中西金属工業	三井住友カード
小林製薬	住友生命保険	羽 車 六	三井住友銀行
阪野商店	住友倉庫		

《個人会員》(入会順・敬称略)

深田晴世	藤原啓助	野口志子	乾井井原村東増関曾筑苧笠近松宇高後島青那国文富士土富森笠米太富和栢	賢彌啓隆小夜里達英郁重満規康忠 孝喬須美由市妙彰昭康瑞茂嘉義 真知子	次介子宏子香生夫夫喜子博二正之雄子子子藏子男枝利之男享	小早川幸恵	岡野山西規律委之助久朗子好子久子こ次典卓子子浩幸子	金西久中西濱上奥野田釜東三早久秦松吉田秦山之口山海下匿名 1名	清恵人光彰子寛助久朗子好子久子こ次典卓子子浩幸子
福岡梅石岸梅屋國稲浮桑三三水渡平安阿中村松笹緒確長岸能宮祐金金菅日	馬阪和桑石高川豊切三神杉野今玉橋有佐小田島松得菱豊飯宮塩塩河佐宮	森小野松山大大橋松山萬松西榎渡小能河宮奥市櫛加続門早森長富	井原村東増関曾筑苧笠近松宇高後島青那国文富士土富森笠米太富和栢	狩狩田上 見 我 瀨 阪 藤 江 民 松 藤 村 山 須 分 野 田 橋 橋 田 崎 松 坂 田 田	次介子宏子香生夫夫喜子博二正之雄子子子藏子男枝利之男享	小早川幸恵	岡野山西規律委之助久朗子好子久子こ次典卓子子浩幸子	金西久中西濱上奥野田釜東三早久秦松吉田秦山之口山海下匿名 1名	清恵人光彰子寛助久朗子好子久子こ次典卓子子浩幸子
岡原本村良友垣田山谷浦島辺川藤部川本本川林井井田田井野定高	馬阪和桑石高川豊切三神杉野今玉橋有佐小田島松得菱豊飯宮塩塩河佐宮	森小野松山大大橋松山萬松西榎渡小能河宮奥市櫛加続門早森長富	井原村東増関曾筑苧笠近松宇高後島青那国文富士土富森笠米太富和栢	狩狩田上 見 我 瀨 阪 藤 江 民 松 藤 村 山 須 分 野 田 橋 橋 田 崎 松 坂 田 田	次介子宏子香生夫夫喜子博二正之雄子子子藏子男枝利之男享	小早川幸恵	岡野山西規律委之助久朗子好子久子こ次典卓子子浩幸子	金西久中西濱上奥野田釜東三早久秦松吉田秦山之口山海下匿名 1名	清恵人光彰子寛助久朗子好子久子こ次典卓子子浩幸子
隆一三克博正千代俊弘子一郎夫子洋子幸夫道士子彦龜門豊治子光子徳	馬阪和桑石高川豊切三神杉野今玉橋有佐小田島松得菱豊飯宮塩塩河佐宮	森小野松山大大橋松山萬松西榎渡小能河宮奥市櫛加続門早森長富	井原村東増関曾筑苧笠近松宇高後島青那国文富士土富森笠米太富和栢	狩狩田上 見 我 瀨 阪 藤 江 民 松 藤 村 山 須 分 野 田 橋 橋 田 崎 松 坂 田 田	次介子宏子香生夫夫喜子博二正之雄子子子藏子男枝利之男享	小早川幸恵	岡野山西規律委之助久朗子好子久子こ次典卓子子浩幸子	金西久中西濱上奥野田釜東三早久秦松吉田秦山之口山海下匿名 1名	清恵人光彰子寛助久朗子好子久子こ次典卓子子浩幸子
岡原本村良友垣田山谷浦島辺川藤部川本本川林井井田田井野定高	馬阪和桑石高川豊切三神杉野今玉橋有佐小田島松得菱豊飯宮塩塩河佐宮	森小野松山大大橋松山萬松西榎渡小能河宮奥市櫛加続門早森長富	井原村東増関曾筑苧笠近松宇高後島青那国文富士土富森笠米太富和栢	狩狩田上 見 我 瀨 阪 藤 江 民 松 藤 村 山 須 分 野 田 橋 橋 田 崎 松 坂 田 田	次介子宏子香生夫夫喜子博二正之雄子子子藏子男枝利之男享	小早川幸恵	岡野山西規律委之助久朗子好子久子こ次典卓子子浩幸子	金西久中西濱上奥野田釜東三早久秦松吉田秦山之口山海下匿名 1名	清恵人光彰子寛助久朗子好子久子こ次典卓子子浩幸子

会費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。・法人会員につきましては年会費1口10万円です。
 会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口に付き個人各1枚、法人各5枚)
 ・ご同伴者は10%割引となります。
 ・関連演奏会のご案内またはご優待を致します。
 ・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。
 ・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。